

my COOL CHOICE CHALLENGE

インタビュートーク

# 私の賢い選択

VOL.2

PERSONS

この夏、インターンシップ（職場体験）として、前橋市役所環境部を訪れた3人の女子大学生。彼女たちが考える『エコ』について、インタビューを行いました。

✿ Cさん

群馬県立女子大学在学。日本語教育専攻。得意の英語を活かし、『日本』をグローバルな目線から捉える勉強をしています。ごみの分別は以前からの習慣。

✿ Sさん

前橋工科大学在学。工学デザイン専攻。建築設備全般に関心があり、現場に出て様々な体験をしたいと思っています。移動はバスや自転車が基本。

✿ Tさん

群馬工業高等専門学校在学。環境都市工学専攻。マレーシアからの留学生でもあり、日本の小説を読むことが趣味であり日課。食品ロス問題が気になっていきます。

✿ 実感するごみ問題

C エコと聞いて頭に浮かぶのは、ごみの問題です。群馬県のごみの量は、全国でもワーストレベルに多いので、前橋でも対策が必要だと思います。

S 地域によってごみ出しのルールが違うのも困りますね。都市部になるほど分別が厳しくなるイメージがあります。ルールを全国で統一すれば、分別しやすくなると思います。T マレーシアと比べると、日本は環境に関する意識が進んでいます。しかし、先進国だからこそ、身の回りの物や食べものを大切にする姿勢が定着していくのではないのでしょうか。私は、寮の食堂をほぼ毎日利用していますが、多くの人が食べ物を残しているのを見て心が痛みます。

✿ 食品ロスはなぜ起こる？



C 食品ロスって、最近話題になってますよね。自分ひとりが気をつけていても、飲食店やスーパーなどで大量の食品廃棄があるのだと思うと、やりきれない気持ちになります。

✿ 『食べきる』という選択

T 私がアルバイトをしている飲食店では、誤オーダー品は即廃棄。余った食材を次の日に繰り越すこともできません。自分にはどうすることも出来ない場所で食べ物が捨てられています。S 衛生面やシステムの都合もあると思うのですが、飲食店でアルバイトをしていると、これは本当に実感します。T 一見すると、お店側の作りすぎが原因に思えますが、これは私たち消費者の需要が存在するからこそその結果なんですよね。どちらの意識も変えていく必要があると思います。

S せめて、自分ができる範囲でも、食材を無駄にしない

ようにしたいです。食べ残しをしないために、予め自分が食べきれない量のメニューを選ぶということもクールチョイス（賢い選択）ですよ。残している友人たちにメッセージを伝えて、スピート大会のテーマに『食品ロス』を取り上げたことがあります。直接注意するのは気が引ける話題でもあるので、大会を通して自分の考えを周囲の人に知ってもらいたいと思います。マレーシア人の私の視点から、日本人のみならずへ伝えることで、はっとする部分もあるのかなと思います。

**S** 「食べきれないなら残せばいいじゃん」と簡単に言うてくる人もいますからね。価値観や考え方の問題もあるのかもしれません。

**C** 「このくらいなら残してもいいでしょ」という気持ちがあるのかもしれない。このくらい……と捨てられてしまった食べ物や資源が、溜まりに溜まって大量のごみになっているのだと思うと、とてももったいないです。

## 未来のための『習慣』

**C** ごみの分別も、食べ物を大切にすることも、『習慣』が大切だと思えます。ごみの種類別に袋を色分けしたりなど、全国共通のルールがあればみんなで意識を共有できると思います。話す言葉や年齢に関係なく、分別の習慣が付けられるのではないのでしょうか。

**S** 『習慣』の重要さは移動手段にも言えることです。生まれたときから車社会に慣れていると、車以外の移動手段が考えにくくなるのだと思います。私は普段から電車やバスを利用していますが、前橋での移動にあまり不便は感じません。移動は車であるもの、という先入観が、公共交通機関は不便だ、という思い込みの原因なのかもしれません。

**T** 未分別ごみや食品ロスが増える、ごみが増えたとその焼却量が増える、焼却量が増えると、温室効果ガスが増えることとなります。ひとつひとつの問題は、同じところで繋がっているんですよ。

だからこそ、日頃の小さな『習慣』でも、大きな結果に結びつくのだと思います。悪循環ではなく、環境のためのよい循環を生み出せるよう、心がけていきたいですね。

作成 前橋市環境政策課  
取材 平成29年8月25日



クールチョイス  
COOL CHOICEは、  
環境にやさしい省エネ型の製品や、サービス、暮らしの工夫など、  
地球温暖化を防ぐあらゆる「賢い選択」をすすめる国民運動です。